



中部横断自動車道八ヶ岳南麓 新ルート沿線住民の会ニュース

No.17 2015年4月10日 発行

今年も桜の花が満開を迎え、八ヶ岳南麓に春の訪れを告げています。沿線住民の会も設立から丸2年を経過し、3度目の春を迎えています。

この間、国交省は何度も関東地方小委員会やワークショップを開催してルート案の検討を重ねてきましたが、八ヶ岳南麓を横断する中部横断自動車道の建設計画は、多くの住民の懸念の声や反対で、未だに新ルート案は決まっていません。

対応方針(Bルート案)は未決定

関東地方小委員会でBルート案が了承されたのは昨年7月のことでした。それから9カ月近く経っても、国交省は対応方針(Bルート案)を決定することができず



中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会運営委員会
 <連絡先> 佐々木郁子 0551-47-6260
 郵便振替 八ヶ岳新ルート住民の会 00220-7-50803
<https://sites.google.com/site/odandonewroot/oshirase>

に現在に到っています。高速道路建設における計画段階評価は、中部横断自動車道と同時期に東北と北海道の高速道路計画でも行われましたが、東北自動車道(朝日～温海)では対応方針案が了承されてからわずか7日間に対応方針が決定されています。

中部横断道(長坂～八千穂)の計画やその進め方がいかに問題が多く、住民が納得できないものであったか、このことから明らかでしょう。

環境アセスメントへの準備を!

国交省はそれでも既定方針として、昨年12月26日には環境アセスメント法で定められている「環境配慮書」に当たる「検討書」を環境大臣に提出しました。ルート案の決定に際しては、計画が環境に与える影響を事前に配慮した文書「環境配慮書」を提出することが必要ですが、その手続きを取ったことで環境アセスメントの準備を一步進めたと言えます。これは新ルート案の問題点を不問にしたまま建設計画を進めるものに他ならず、問題の解決とは程遠いものです。

環境アセスメントでは、新ルート案が自然環境に与える様々な影響を検討し、その問題点を明らかにしていくことが大切です。私たちは地域の様々な人たちの協力して、その準備と検討を急いでいく必要があります。

八ヶ岳南麓の 自然・生活環境・景観を守ろう

中部横断自動車道の八ヶ岳南麓を横断する新ルート案は、沿線住民の会や多くの人々が指摘してきたように八ヶ岳の自然環境に甚大な影響を及ぼすものです。住民の生活環境を変え、美しい八ヶ岳南麓の景観を損ない、観光資源に大きなダメージを与えるだけでなく地域の経済活動の衰退を招く結果になることは、様々な議論を通じて明らかになってきています。

環境アセスメントが実施された場合、この自然環境・景観の大切さを再度明らかにすることで、新ルート案の見直しを求めていきましょう。

3/13 北杜市議会議長へ再び要請 再回答を求める

沿線住民の会ではこれまで八ヶ岳南麓の里山地域を横断する中部横断自動車道新ルート案を前提とした北杜市中部横断自動車道活用検討委員会（以下、活用検討委員会）の在り方に対して、新ルートB案前提ではない広く住民参加型の協議会方式に改めること、国交省実施のアンケート結果及び地元説明会、北杜市が行った「北杜市中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン（素案）」のパブリックコメントによる結果で示された八ヶ岳南麓での高速道路建設反対、環境・景観を損なうことや地域分断、生活環境への懸念する意見などを正当に取り扱い、民意を反映することを北杜市に求めてきました。しかし活用検討委員会の在り方についてはいまだに見直しもされず住民参加型の協議の場もつくられず、民意を無視した開催が継続されています。

委員会の在り方、議員倫理の公平・中立性の保持の徹底、高速道路の問題点を正す

1月28日に大泉町下井出地区東組高速道路反対委員会と共に北杜市議会議長に対して要請行動を行いました。明確な回答が受けられませんでしたので再度回答を要請していました。3月13日にその再回答があり、その際、八ヶ岳南麓を横断する高速道路建設の議会審議の実態、高速道路建設の必要性、北杜市中部横断自動車道活用検討委員会のワークショップなどについて再度の質疑・回答を求める要請を行いました。

再回答は、

- 1、北杜市活用検討委員会のワークショップが公平性の欠ける募集をしていることについて
「募集要項で広くということ募集しているので問題はない。」「新ルート案に疑問や反対の人を排除しているわけではない。」
- 2、ワークショップに3名の推進の会の議員が参加していることについて
「市民の立場で参加している。議員がワークショップに参加することで、参加者が自由な意見を発表しづらくなることはない。」「議員の倫理

規定にも反していない。」

3、非公開での開催については

「ワークショップの開催後に内容を公表している。非公開といっても傍聴ができないだけだ。」

4、中部横断自動車道の建設の必要性について

「議会では推進の早期整備を求める意見書を3回採択している。議会は推進の立場である。」というもので、残念ながら議長及び同席した副議長共に市議会運営の重責を担っているという立場にあるとは思えない見解表明、回答に終始し、前回から一歩も進まずに終わりました。

議長とのやりとりのなかで、議会では新ルートB案の建設による自然・生活環境、農業、観光など地域への具体的な影響やその是非についての審議が一度もされなかったことを正し、自然環境・景観や住民の生活などに重大な影響を及ぼす問題について、議会がその内容を検討・審議することなく早期着工、推進の意見書を採択したことに抗議しました。北杜市議会議長の「再回答」は市のやっていることをただ追認するだけのもので、議会として行政を監督する役割を放棄しているものと言えます。

北杜市民の民意を重く受け止め、今からでも議会での具体的な審議を尽くすよう強く求める

北杜市議会議長、副議長には①国交省が2011年と2012年の2回に渡って行ったアンケート結果である現道の安全性の向上や環境保全、国道141号線の改良案を望み、北杜市民の60%が高速道路建設を望まないとする民意。②国交省主催の2013年1月～2月地元説明会で出された高速道路が必要とする意見を上回る高速道路は不要の意見 ③2013年12月20日～1月31日に行われた「北杜市中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン（素案）」のパブリックコメントとして出された意見のうちの8割を超える高速道路建設に反対など否定的な意見などに示されている北杜市民の民意を重く受け止め、今からでも中部横断自動車道新ルートの問題について議会での具体的な審議を行うなど真摯に対応するよう強く求めました。



傍聴記

第8回北杜市中部横断自動車道 活用検討委員会を傍聴して

3/24 北杜市役所で開催された北杜市中部横断自動車道活用検討委員会を傍聴しました。

ファシリテータからはワークショップ(以下、WS)開催結果報告・道路プラン(案)・今後の進め方(案)・その他の説明がありました。

全4回開催の関係者WSは、道路計画に比較的関心が高い地域のオピニオンリーダーに道路プランの主要な検討課題を出してもらう事を目的として開催、市民WSは関係者WSのまとめを受けてより多彩な市民の意見を伺う事で提案の妥当性を検証する事を目的に行われたとの説明もありました。

道路プラン(案)の説明では、WSで出された検討課題を元に、まちづくりビジョンの4つの分野(環境・景観、くらし、地域活性化、観光)に分類し中部横断自動車道への整備にあたっての配慮事項と、道路計画の検討に当たっての配慮が必要な地域資源がルート上のどこにあるのか地図で示されていました。傍聴時に配布された参考資料は厚さ1.5センチ、費やされた時間と費用……。審議会に参加していた甲府河川国道事務所の職員は「これらの内容に関しては参考にさせて頂く。」と発言し、道路プラン(案)に対する関心の低さを感じられました。今後の進め方(案)では平成27年度以降は地域住民自らが取り組む事となる「市民の取り組みプラン」作成の為、関係者WSと市民WSが再度計画されています。

中部横断道のBルート建設に反対している建設予定地内の住民を排除して非公開で開催をしているWSは、住民無視で公平性・透明性を欠くと中止を求める申し入れを行ってきましたが納得できる回答が得られないまま、WSが終了した事は大変遺憾に思います。

配慮が必要な北杜市固有の自然環境、神社仏閣・有形文化財、観光施設等の地域資源の量は膨大で、これらに配慮しながら道路計画を検討する事はほぼ不可能であり、八ヶ岳南麓を横断するこのBルート案の現地調査が不十分であったことが証明されました。

今後、地域住民の意見提出の機会も準備されて

おり、推移を見守りながら必要によっては再度の申し入れも検討しなければと思います。(猪原弘子)

八ヶ岳南麓のここが好き

—こんなこと、あんなこと—



八ヶ岳の22年

～変わった、ひまわりの種が減っていくペース～

東京から大泉に移住してきて22年になる。当時バブルは終わりかけていたが清里はブームがまだ続いていたのか人で溢れていた。まだ高原大橋を通る道路はなかったので大泉から清里に行くには横断道まで登って下るか、141号線を使うか、あるいは当時まだ未舗装部分が残っていた吐竜の滝に行く道を対向車が来ないことを祈りながら走った。レインボーラインもまだ無かった。大泉駅方面から五町田に抜ける28号線は上から来ると若林の交差点はTの字になっていて突当たり、五町田に出るには西側を迂回しなければならなかった。20年あまりの間にこのあたりの道路事情はだいぶ変わった。家も増えたので景色がすっかり変わったと思える場所も多い。

この変化とどの程度関係あるかはわからないが、レインボーラインから800m北に位置する我が家から定点観測する野生動物事情も変化した。鹿は増えたが小動物は確実に減っているように感じる。まず小鳥、毎年冬はひまわりの種をベランダに出して現在も10種類近い小鳥たちの姿が一日中絶えないのだが、それでもひまわりの種が減っていくペースが20年前と全く違う。20年前の数分の一しか減らなくなった。これには小鳥が減っただけでなくリスの減少も大いに関係ある。以前は小鳥に混じって、ロ一杯にひまわりの種を詰め込んでいくリスが毎日何匹も来ていたのだが今は年に何回か見かけるだけになってしまった。キジも減った。以前は春になると毎日のようにキーキーという鳴き声が聞こえ、姿もよく見

かけた。しかし最近はその鳴き声も時々しか耳にしなくなったし、姿を目にすることも稀になった。十数年前、国の天然記念物のヤマネが我が家に飛び込んできたことがあったがそれ以来見かけない。

一回しか見てないものを、その後見なくなったからといって減ったと考えるのは軽率だが、高原大橋の近くにお住まいの方から、以前よく見かけていたヤマネを清里に通じる道路ができて以来全く見なくなった、という話を伺ったことがある。数が減ったのか、生息地が変わったのか、我が家からの定点観測だけではわからないが、変化が起きているのは確かだ。新しい道路は今までの自然の流れを分断する。そしてレインボーラインのような7~8m幅の道路だと1kmあたり約2千数百坪の広さの土地で山が削られ、木が倒され、畑や草地が潰されアスファルトで固められたことになる。変化が起きて当然という気がする。高速道路の場合だと幅30mとしてコンクリートとアスファルトで固められる面積は1kmあたり……計算するのもしやになる。(小林良一)

シリーズ

八ヶ岳の麓の「日本みつばち」たち <春編>

「日本みつばち」を知っていますか？日本在来種の野生みつばちです。いちご温室などで受粉のために放されたり、れんげやニセアカシアなどの蜜を集めるために巣を置いている「西洋みつばち」とは違うみつばちです。「日本みつばち」は、この素晴らしい



八ヶ岳の麓に野生の状態がたくさん生息しているのです。

この野生の「日本みつばち」を捕獲し自宅の庭先で飼育されている方が、この八ヶ岳の麓にはたくさんいらっしゃいます。初春から蜜を求めて飛び回るこの「日本みつばち」たちの愛らしい姿に、いとおしさを感じるのは私だけではないでしょう。

この美しい八ヶ岳の麓では、4月から6月にかけて、分蜂(ぶんぼう)という蜂の世代交代が始まります。新しい女王蜂が誕生し、以前の女王蜂が、半分くらいの数の働き蜂を引き連れて新しい住処を探す旅に出るのです。庭先で「日本みつばち」を飼育していると、新しい住処に旅立つ分蜂行動が間近で見られます。巣の近くでたくさんの「日本みつばち」が、空を狭しと舞い始めます。数万の「日本みつばち」が目の中の空を埋め尽くす様は、まさに圧巻です。その後、近くの木の枝に集まって蜂球(ほうきゅう:画像参照)を作ります。ここで蜂達の作戦会議です。何処に行くか？どこの住処が居心地がよさそうか？などと、事前に近くの森を調査していた偵察蜂の情報を基に数時間から一日の作戦会議です。新しい住処が決定すれば即行動。新しい女王蜂に今の住処を譲って、蜂球の「日本みつばち」達は女王蜂とともに新しい住処にまっしぐらです。

「日本みつばち」を飼育している人は、この分蜂時の新しい住処へ飛び立つ前に、事前に作った巣箱に丁寧に優しく誘導し、巣作りを促します。

さて、新しい住処で女王蜂はせっせと子作りをします。働き蜂の一生は約20日で、一生の前半は子育てや巣の掃除など、後半は巣から飛び立って花々を回り、蜜を集めて、その後かわいそうに死んでしまいます。「日本みつばち」が一生で集める花の蜜はスプーン一杯位といわれています。

たくさんの「日本みつばち」達が、ここ八ヶ岳の麓のすばらしい自然環境の中で生きていけることを願って止みません。夏編以降はまたの機会にお届けいたします。(T. Y.)

「太陽光発電設備の乱立による 環境破壊について考える」

福島原発事故以来、反原発・脱原発の声とともに再生可能エネルギーの推進が長期的、大局的な確たる展望も無いまま国策としてなされてきました。その結果、遊んでいる土地が多く日照時間の長い北杜市は太陽光発電設備の設置にはもってこいということで、昨年あたりから雨後のたけのこのようにみるみる増設されてまいりました。

北杜市は豊かな自然に恵まれ素晴らしい景観を保っていますが、これらの貴重な財産が無秩序に乱立する地上設置型太陽光発電設備によって損なわれ始めています。

私たちは一年余り前からこのような乱開発に対し危機感を抱き様々な対応を取ってきました。その間世間の風も少しずつ変化し、全国各地で同様の問題も提起され、また様々な問題点も指摘されるようになってきました。遂には、山梨県も太陽光発電設備の乱立により森林や景観が破壊されている現状を危惧するに至り、太陽光発電設備を工作物として扱い景観条例に組み入れることを県下の各自治体に対し指導していただけるまでになりました。その結果、現在山梨県下の景観行政団体(24市町村)の内19市町村が条例化を決定、または実施予定となっているとのことです。

しかし北杜市は、この指導にも耳を貸さず、昨年9月に制定した「北杜市太陽光発電設備設置に関する要綱」でもってこと足りるとしています。しかしこの「要綱」はあくまで市役所の内部規定であり、法的拘束力はありません。現に要綱制定後半年余り経過しましたが、この要綱によるめぼしい現実的効果は残念ながら見当たりません。

北杜市の未来を真剣に危惧しルール作りを求める私たちの声を一部の反対として無視し続けています。

そこで私たちは心から北杜市の自然を愛し、守り続けたいと願っているのは一部の声では無いということをおた自身を確認し、市当局にもご理解いただくために、ルール作りを求める署名活動を開始いたしました。

3月8日に署名活動を始めて以来、3月31日現在、以下の署名が集まっています。

北杜市民	2,439 筆
別荘・土地所有者	355 筆
北杜市外	1,673 筆
計	4,467 筆

中部横断自動車道沿線住民の会の皆様も目的とするところは「北杜市の自然と景観を守る」ということに尽きると思います。

自然の中に身を置いて生活してゆきたい。都会の生活の疲れを癒しに自然に浸りたい。北杜市にはそれらの思いに応える力があるのです。その貴重な力を損ないたくないという気持ちで連帯してゆきたいと思っています。署名用紙や資料は下記にご連絡いただければお届け出来ます。(文責:野上悦郎)

太陽光発電を考える市民ネットワーク共同代表:

石田良介・猪原弘子・高橋正夫・田中正巳・内藤由治・中哲夫・野上悦郎・弘田由美子・帆足興次・堀内正人・牧野州哲

事務局 Mail: yametebassai@yahoo.co.jp

TEL: 080-9193-6639

所在地: 山梨県北杜市小淵沢町上笹尾 3332-2007

乱立する太陽光発電施設



おしらせ

- ◆ 環境アセス学習会 5月23日(土) 午後1時半～ いずみ活性化施設ホールにて
講師:川村晃生氏

新山梨環状道路北部区間反対連絡協議会 事務局長,
リニア・市民ネット山梨 代表、日本景観学会副会長

「アセスで戦う」ー環状道路北部区間とリニアの経験からー

川村晃生氏は沿線住民の会ニュースNo.16 で環境アセスについてこう述べておられます。

「事業者が動き始める前に、住民側は早くに体制を作るべきである。景観は私の専門分野でもあるので、協力を惜しまない。ともに頑張りましょう。」と。

- ◆ 地区別懇談会(住民交流会)を5月以降開催

～ あなたの地域のあなたの仲間とともに！ ～

中部横断自動車道のBルートは多くの地域にまたがっています。

各々の地域で様々な情報が飛び交い、不安に過ごしている方もおられるのではないかと心配しています。地域で顔を見ながら情報交換やこれからの取り組みについて懇談したいと思います
「大勢の中ではちょっと？」という方も、小さな集まりの場ですので、どうぞお越し下さい。

決定次第ホームページやML等でお知らせいたします。

「会員制移行への呼びかけとお願い」

「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」は、発足当初（平成25年）より、たくさんの皆さまから、多大なご支援（カンパ）をいただくことで運営がなされてきました。しかし、今後の長期にわたる当会の活動を継続する為には、安定的な財源確保のための会費制が必要との考えに至り皆様をお願いすることとなり、本年1月の総会時に提案し、皆さまからの賛同をいただきました。

「会員」は年会費2,500円、「ニュース購読会員」（年6回発行予定）は1,000円といたします。また、「会員」による新しいメーリングリストも運用されております。今後も多くの皆さま方より、たくさんのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

既に会員及びニュース会員として登録して下さった皆さまありがとうございました。勝手ながら同封させて頂きました振込用紙でお知り合いやお友達に声をかけて頂けたら助かります。もっともっと大きな輪にしていきたいと思っておりますのでご協力よろしくお願い致します。

編集後記

桜の季節が訪れた！桜は人々の心を開放し、日頃のうっづんを晴らすのがとく世の中の人々は桜に酔う。我が家の庭にある桜は前の住人から受け継いだものだが毎年見事に咲き、今は満開のこぶしと膨らみ始めた桜のグラデーション、ニュースが届く頃にはピンク色に染まる。北杜市は高低差により桜を長い期間楽しむことができ、八ヶ岳に向かって次々に咲くこぶしや桜はとても素晴らしい景観のひとつだ。が、太陽光発電設備の乱立によって多くの森林伐採が行われ、今、環境破壊が起こっている。南には中部横断自動車道、北には太陽光発電施設、そんな北杜市なんてごめんだ。自然豊富な北杜市だからこそ魅力があり、多くの観光客が訪れ、別荘所有者や移住者がやって来るのに。（秀実）

